

マリンレジャー安全レポート

第七管区海上保安本部
マリンレジャー安全推進室
093-321-2931(担当;上野)

第116号 平成27年5月

小学生溺水事故と連絡途絶船の事故

今月、磯遊びの事故、連絡途絶船の事故が1件ずつありました。

いずれも、無事ではありましたが、これから更に温かな日が増えマリンレジャーが活発になる時期を迎えることから、再発防止を目的として、皆様にご連絡いたします。

事故の概要と予防策は次のとおりとなっています。

～ 5月に管内で発生した事故事例 ～

磯遊び中の溺水(小学生3名)

【事故概要】

海岸横で実施されていたイベントに参加後、衣服を着用したまま磯遊びを始めた小学生3名は、夢中になった結果、足の付かない海域まで移動してしまい溺れてしまいましたが、付近の防波堤にいた男性2名により無事に救助されたものです。

【原因・再発防止策】

遊びに夢中となっている4名に対し、母親が声を掛けながら、沖合に行かないよう指導していたものの、その母親が目を離した隙に4名のうち3名が溺れたものです。

子供の溺水事故防止には、保護者等の監督者による子供の**継続監視**が非常に重要です。
プレジャーボート連絡途絶

【事故概要】

船体水洗いを終え、定係地へ向け、プレジャーボートの回航を始めたところ、霧により自船の位置を見失ったうえ、携帯電話の電池も切れたことから、連絡が途絶したものです。

なお、このプレジャーボートは、明け方、巡視艇に発見され安全が確認されております。

【原因・再発防止策】

本件は、自船の位置を失い、連絡手段を失ったことを踏まえ、船長が自ら安全な海域で待機したことで、他船との衝突等の危険を回避することができたものです。

しかし、連絡が取れずいつまで待っても帰ってこない父親を心配した家族は、自ら徹夜で捜索する等、不安な夜を過ごされたものと推察されます。

プレジャーボート等の小型船は、天気の良い日であっても他の大型船等から気付かれにくいものです。

特に、霧等で視界不良となった際には、他の大型船等から更に気付かれにくくなることから、衝突などの危険性が高まります。

以上のことから、**プレジャーボート出港時には、気象・海象を出港前に確認するとともに、連絡体制を確保(携帯電話の充電、防水)**し、安全な航海に心掛けてください。

バックナンバー

http://www.kaiho.mlit.go.jp/07kanku/gyoumu/kyunan/marine_anken_report/

海で命を守る

3つのポイント

○ライフジャケットの常時着用

○連絡手段の確保

・防水携帯電話の携行!

新規

通報位置特定のため、

通報時にGPS(位置情報)をON!

○海のもしもは「118番」



未来に残そう 青い海

海上保安庁第七管区海上保安本部